

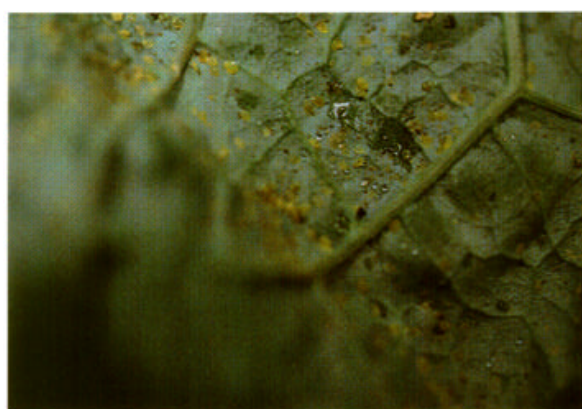
### <タバココナジラミ>



タバココナジラミ（右）とオンシツコナジラミ（左）の成虫



タバココナジラミ（上）オンシツコナジラミ（下）の幼虫



高密度になると、すす病を併発し商品価値を失う。

### <タバココナジラミ>

学名：Bemisia tabaci Gennadius 英名：sweetpotato whitefly

#### 1. 症 状

施設栽培のポイントセチアで発生した。これまで使用してきた、オンシツコナジラミの薬剤に対して感受性が低い。本種の吸汁により、葉の退色、萎凋、成育阻害を生じる。多発すると排せつ物にすす病が発生し、著しく品質を低下させる。

#### 2. 生 態

本種はウリ科、ナス科、マメ科、キク科、アブラナ科、シソ科、アオイ科その他の園芸作物に広く寄生する。1世代は環境条件と寄主によって異なるが、通常30～45日。卵～成虫までは23日～26日で、羽化後1～2日で産卵を始める。産卵数は100～300個。

#### 3. 防 除

- 1) 黄色粘着リボンは発生初期の密度低下に有効である。
- 2) 発生初期にトレボン乳剤1000倍、アプロード水和剤2000倍、モレスタン水和剤1000倍により、オンシツコナジラミと同時防除を行う。（品種により、葉害を生じる場合あり。）

#### 4. 記 事

本種は1989年に江東地区、八王子市、瑞穂町で多発した。